



「Homemade Battery Powered Toys and Educational Devices for Severely Handicapped Children」(第2版)

Linda J. Burkhardt 著

重度重複発達障害児を治療する上で、患児の動機づけのために、特別に改良した電池おもちゃなどがほしいという希望がよく生じる。しかし、リハ工学者に依頼し、それぞれの思いつきを実現させることは不可能に近い。たとえリハ工学者が身近にいても、その専門家の仕事は経済的にも時間的にも貴重なものである。工学者がいない場合こそ、療法士自身が簡単におもちゃを工夫できれば、治療上で創造力の応用範囲が広がるであろう。

本小冊は、電気分野に弱くかつ予算の厳しい療法士のための do it yourself 手引きで、多種類のスイッチの作製、電池入りおもちゃなどとのつなぎ方、治療応用の提案まで説明してくれるものである。本の通り、種々のものを作ったり、改良をしたり、(不要になった時に)分解したりすることによって各種障害児に対して何らかの適宜したものを展開させられるであろう。大人の障害者にももちろん応用できる。安価で作りやすいという点で応用の展開が現実的に可能になる。

特別な材料や道具はものによって変るが、水銀開閉器、マイクロスイッチ、ガラスこまがらスイッチ、磁石、電池、豆電球、針金、はんだごてなどがあれば、本書内のすべてが作れるであろう。

具体的な内容は、頭位調節スイッチ、手押板スイッチ、頬スイッチ、引っ張るスイッチ、はめるスイッチ、それにラジオ、カセット録音器、電池入りおもちゃ、などとのつなぎ方、また各装置の治療応用例が取り上げられている。また、比較的複雑なおもちゃや装置とその応用について多少論じられている。材料はほとんど手元にあるごく簡単なものなので、たとえ一・二回下手に作ったとしても、容易に分解ができ、浪費にはならないであろう。

日本の読者にとって本書の不便なところとしては、恐らく部品などの説明が米国消費者に向いているということであろう。しかし、図をみることにより、日本で代用できる材料もあり、本書内のすべてのものを作ることが可能と思われる。

身心障害児(者)のために何か面白いものを作って治療に加えたいと考える療法士にとって、恐らく入手したい小冊であろう。

(21.6×27.9 cm, 58 頁, 船便で \$ 6.40, 航空便で \$ 11.75, 1982. 注文先: Linda J. Burkhardt: 8315 Potomac Avenue, College Park, MD 20740, U.S.A.)

(アイオワ大学附属ホスピタル・スクール

理学療法士 ポール・アンドリュース)